

一般社団法人日本地質学会2015年度総会記事

一般社団法人日本地質学会 2015年度総会議事録

以下のとおり、2015年度定時社員総会を開催した。

日時 2015年5月23日(土) 14:40~15:54
会場 北とびあ 第1研修室 (東京都北区
王子 1-11-1)

- 総会開催にあたり本日出席の代議員から、議長として稲場土誌典氏を、副議長として重松紀生氏を選出した。
- 議長は審議開始に際し、本日出席の代議員から書記として成瀬元氏ならびに河尻清和氏を、また、議事録署名人として同二人を指名した。

議長は、本日の出席者数を確認し、総会定足数である代議員の過半数61名をこえる出席者があるので成立している旨宣言し、議事に入った。

代議員 (=社員) 総数 121名
議決権総数 121個
出席者数 (委任状36, 議決権行使者34含む)
94名 この議決権総数 94個
出席役員 代表理事 (会長) : 井龍康文
理事: 天野一男 安藤寿男 市川八州
夫 上砂正一 小山内康人 海野進
緒方信一 笠岡友博 川端清司 川辺
文久 小嶋智 齋藤真 坂口有人
佐々木和彦 菖蒲幸男 杉田律子 竹
内誠 内藤一樹 中澤努 原山
智 久田健一郎 廣木義久 星博幸
保柳康一 松田達生 松田博貴 向山
栄 山路敦 山本高司 渡部芳夫
監事: 青野道夫
以上 理事31名, 監事1名

第1号議案 2014年度事業報告・2014年度 決算報告

1) 齋藤常務理事から資料にもとづき2014年度の事業報告があった。昨年度行われた事業内容、執行理事会および理事会議決・承認事項について報告が行われた。また、事務局員の退職に関する経緯について補足説明があった。

なお、2014年度内および総会開催の本日まで逝去された(逝去が判明)会員18名(うち名誉会員6名)に対し、黙祷を捧げた。

本議案については、特に質疑応答はなく、全会一致で本議案は承認された。

2) 会計担当の緒方理事から2014年度決算について報告があった。学会員の年齢構成、

世代別の入会者数・退会者数の説明のうち、近年の傾向として、会員数が毎年50-60名程度のペースで減少しており、おおよそ1年間に95万円のペースで減収が続いていることが紹介された。さらに、事務局の人員費抑制を解除した結果、給料手当支出が予算案より決算案が増額となっていることも報告された。支部・部会等活動事業については、できるだけ受益者負担で活動を実施していただきたいとの付帯意見があった。

本議案については、特に質疑応答はなかった。

その後、青野監事より会計監査の実施報告があった。会計事務は適正に処理されているとの報告があった。なお、収入減に対して何らかの対策を検討してほしいとの付帯意見があった。

本議案については特に質疑応答はなく、全会一致で本議案は承認された。

第2号議案 2015年度事業計画

井龍会長より、2014年度の本学会の事業成果を踏まえた2015年度の事業計画の基本方針が示された。

本議案について特に質疑応答はなく、本議案は全会一致で承認された。

第3号議案 2015年度予算案

緒方理事より2015年度の予算案について説明がなされた。2014年度予算より収入、支出とも減額となっている。経費節減に努めているものの、来年度は引き当て預金を370万円取り崩す必要があることが説明された。なお、引当預金取崩し収入は前年度に比べて減額となっていること、地学オリンピック三重大会協賛金は2015年度だけでなく2016年度にも支出予定であることの説明があった。

本議案について特に質疑応答はなく、本議案は全会一致で承認された。

第4号議案 名誉会員の選出

山本名誉会員推薦委員会委員長より、候補者2名について紹介があった。

本議案について特に質疑応答はなく、本議案は全会一致で承認された。

以上をもって審議を終了し、議長は閉会を宣言した。

2015年5月23日

以上、決議を明確にするためこの議事録を作成し、議長、副議長および出席代議員、理事がこれに記名、押印する。

一般社団法人日本地質学会2015年度総会

総会議長 稲場土誌典
総会副議長 重松紀生
議事録署名人

河尻清和
成瀬元

代表理事 井龍康文
理事 齋藤真

2014年度事業経過報告

1. 報告事項

1) 会員の動静

2015年4月末現在の会員は、賛助会員28社、名誉会員61名、正会員3663名(うち院生割引99名、学部割引3名)、会員総数3752名、2014年4月末と比べて70名の減少であり、その内訳は次のとおりである。

入会者 146 (賛助 1社, 正会員 145名
〔うち院生割引 86名, 学部割引 11名])
退会者 100 (賛助 0社, 正会員 100名
〔うち院生割引 5名, 学部割引 1名])

除籍者 99 (正会員 99名)

逝去者 17 (名誉会員 5名, 正会員 12名)
名誉会員: 亀井節夫 (2014/5/23), 首藤次男 (10/6), 斎藤昌之 (11/26), 千地万造 (2015/1/31), 野沢保 (3/28)

正会員: 吉川清志 (2010/12/11), 平野弘道 (2014/5/5), 今田耕二 (7/25), 中島和一 (9/13), 青野宏美 (11/11), 平井明夫 (12/21), 粕武 (2015/1/7), 済川要 (1/10), 駒井潔 (1/28), 豊原富士夫 (2/18), 土隆一 (4/2), 真鍋健一 (4/19)

2) 学会運営に関する諸集会及び委員会等の活動

<2014年度定時総会>

日時: 2014年5月24日 15:30~17:00

会場: 北とびあ第2研修室

議決権のある社員総数 132名 (定足数: 67名), 議決権の数 132個

出席社員数 (委任状および議決権行使書提出者を含む) 111名,

議決権の総数 111個, 出席理事 31名, 出席監事 2名

審議事項: 1) 定款の改正, 2) 総会規則の改正, 3) 選挙規則の改正, 4) 2013年度事業報告・決算報告, 5) 代議員および理事選挙結果報告, 6) 2014年度事業計画, 7) 2014年度予算案, 8) 日本地質学会125周年事業の実施について
いずれの議案も賛成多数で承認。

<2014年度臨時総会>

日時: 2014年9月13日 15:30~17:00

会場：鹿児島大学郡元キャンパス共通教育棟2号館215室

議決権のある社員総数 123名（定足数：62名）、議決権の数 123個

出席社員数（委任状および議決権行使書提出者を含む）83名、

議決権の総数 83個、出席理事 23名

審議事項：1）理事の辞任による後任理事の選任

全会一致で承認。

<委員会等の開催>

- ・執行理事会（11回）議事内容、報告等については、随時HP、ニュース誌に掲載
- ・理事会（4回）議事内容、報告等については、随時HP、ニュース誌に掲載
- ・その他委員会（メールによる会議を含め、随時開催）

3) 学会の行事・事業

1. 日本地質学会第121年学術大会

会期：2014年9月12日～15日

会場：鹿児島大学郡元キャンパス

参加者：834名（会員693名、非会員141名）

- ・一般発表：576件（口頭347件、ポスター229件）
- ・シンポジウム：2件（うち1件は一般公開、22講演）
- ・アウトリーチセッション：ポスター4件
- ・緊急展示（ポスター発表）：1件
- ・優秀ポスター賞の授与：9件
- ・巡検：実施8コース
- ・ランチョン：専門部会を中心に12件
- ・夜間小集会：9件
- ・若手会員のための業界研究サポート：2014年9月14日参加企業・団体：10社

<日本地質学会各賞の授与式・記念講演会>

日時：9月13日（土）、会場：鹿児島大学郡元キャンパス共通教育棟1号館121教室

- ・来賓挨拶與倉昭治（鹿児島大学理工学研究科長・理学部長）
- ・日本地質学会小澤儀明賞受賞スピーチ 菅沼悠介（国立極地研究所）
「堆積物の磁化、いつどこで獲得？—地磁気の目盛りで地球史を読む—」
田村 亨（産業技術総合研究所）「海岸地形と地層の間」
- ・日本地質学会国際賞受賞記念講演 江博明（National Taiwan University）
「Evolution of the Continental Crust: Geochemical Solution and my Interaction with Japanese Scientists and Japanese Rocks」
- ・日本地質学会賞受賞記念講演 川端穂高（東京大学）「地球環境と人類圏の行くえ「GEOLOGYと人類の未来」」
斎藤文紀（産業技術総合研究所）「地層と地形から読み解く：沖積層と現行堆積過程の研究」

<年會関連行事>

- ・地質情報展2014かごしま—火山がおりなす

自然の恵み—2014年9月13日～15日、参加者：1,051名

- ・市民講演会「桜島と諏訪の瀬島の火噴火と火山災害」2014年9月13日、参加者：120名、講師：小林哲夫
- ・地学教育委員会

小さなEarth Scientist のつどい～第12回 小・中・高校生徒地学研究発表会：2014年9月14日、

参加校11校、14件、うち3件に優秀賞を、3件に奨励賞を授与。

第13回理科教員対象巡検（地学教育・アウトリーチ巡検）：2014年9月13日、「コース8：2011年新燃岳噴火と霧島ジオパーク」案内者：井村隆介、石川 徹

2. 地質の日本部イベント

- ・街中ジオ散歩 in Tokyo「下町低地の地盤沈下と水とくらし」徒歩見学会（日本応用地質学会との合同主催行事）：2014年5月10日、参加者25名（うち小学生1名）、後援：東京都地質調査業協会、協力：東京都江東治水事務所水門管理センター、東京都土木技術支援・人材育成センター、日本地質学会関東支部、見学コース：東京都江東区清澄白河、住吉、東大島、南砂町界限（仙台堀川、小名木川）、講師：中山俊雄氏、小松原純子
- ・第5回惑星地球フォトコンテスト表彰式：2014年5月24日、北とびあ、審査委員長：白尾元理
- ・惑星地球フォトコンテスト入賞作品巡回展示

銀座プロムナードギャラリー 2014年5月3日（土）～5月17日（土）[第3、4、5回入選作品]

みどりのiプラザ 2014年7月1日（火）～7月31日（木）[第3、4、5回入選作品]

山口大学サイエンスの小道 2014年9月1日（月）～9月30日（火）[第3、4回入選作品]

地質情報展2014かごしま 2014年9月13日（土）～9月15日（月・祝）[第5回入選作品]

第5回あいちサイエンスフェスタ 2014年9月27日（土）～11月3日（月・祝）[第5回入選作品]

奥出雲多根自然博物館 2015年1月2日（金）～2月2日（月）[第5回入選作品]

3. 地質調査研修

研修地域：「千葉県君津市及びその周辺地域（房総半島中部域）」

春季：定員不足により開催中止

秋季：2014年11月25日～11月29日

参加者：6名

共催：産業技術総合研究所地質調査総合センター、協力：日本地質学会関東支部

講師：徳橋秀一、工藤 崇（産業技術総合研究所）

4. 地質学者に答えてもらおう（2012年3月～運用開始）

運用開始からの質問件数の総数は56件（うち、2014年度中に届いた質問は20件）、これまでの質問の主なものとその答えは学会HPにて公開中。

4) 出版物の刊行

<地質学雑誌>

・120巻4号（2014年4月）～121巻3号（2015年3月）を刊行した。総ページ数は481ページ。

・地質学雑誌補遺：鹿児島大会巡検案内書 CD-ROM版（8月号）

<日本地質学会ニュース>

・17巻4号（2014年4月）～18巻3号（2015年3月）を発行した。総ページ数は360ページ。

<Island Arc>

・Island Arc 編集委員会の編集により、Wiley社よりVol. 23, Issue 2～Issue 4, Vol. 24, Issue 1を刊行した。総ページ数は382ページ。

<ジオルジュ>

・前期号（2014年5月）、後期号（同年11月）各16ページを発行。

<その他>

・週刊地球46億年の旅（朝日新聞出版、2013年11月1日創刊～2015年2月8日（通巻50号：完結））の読者プレゼント用、地質学会公認フィールドノートの監修。

5) 関連外部委員会への協力

下記の関連外部委員会等に対して本学会から選出された委員を通じて、これまでに引き続きそれぞれの活動、関連学会の発展と連携に協力した。

日本地球惑星科学連合：評議員（井龍康文）、連絡委員（緒方信一）、プログラム委員（沢田 健、小宮 剛）、キャリアパス支援小委員会委員（杉田律子）、環境・災害対応委員会-災害の委員（川畑大作）、環境・災害対応委員会-環境の委員（小荒井 衛）、ジャーナル企画経営委員（井龍康文）、ジャーナル編集委員（ウォリスサイモン）、自然史学会連合（斎木健一）、地質技術者教育委員会（山本高司）、地質の日事業推進委員会（委員長：平田大二、副委員長：中澤 努）、アイソトープ・放射線研究発表会運営委員会（運営委員、小宮剛）、日本ジオパーク委員会（委員平田大二）、(NPO)地学オリンピック日本委員会広報小委員会（坂口有人）、地質・地盤情報活用推進に関する法整備推進協議会（委員、小嶋智、利活用WG：松浦一樹、広報WG：澤口 隆）、放射性廃棄物の地層処分技術WG（委員、渡部芳夫）、第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム組織委員会（顧問、井龍康文）など。

6) その他報告事項（主に他学協会との共催・後援、協賛行事など、開催時期に関わらず2014年度内において承認したもの）※その

ほかはNews誌, HPに掲載の執理事務会議事録, 理事会議事録参照。

<他学協会などからの依頼>

- ・朝永振一郎記念第9回「科学の芽」賞（筑波大学）の後援。
- ・日本粘土学会, 第58回粘土科学討論会（2014/9/24-27, 福島市）の共催。
- ・NPO法人日本地質汚染審査機構, 第13回地質汚染調査浄化技術研修会（2014/4/25-27, 潮来市）の共催。
- ・日本科学技術振興財団「青少年のための科学の祭典」事務局, 青少年のための科学の祭典2014（2014/5/18-31, 全国で開催）の後援。
- ・三浦半島活断層調査会, 地質の日記念「城ヶ島観察会」（2014/5/10）の後援。
- ・J-DESCコアスクール・微化石コース（第7回）／第10回微化石サマースクール（2014/8/29-31）の共催。
- ・日本地球化学会, 2014年度年会（2014/9/16-18, 富山大学）の共催。
- ・新潟大学学術情報基盤機構旭町学術資料展示館, 企画展示「新潟のジオパーク展・糸魚川と佐渡の魅力」（2014/7/12-8/29）の後援。
- ・第30回ゼオライト学会研究発表会（2014/11/26-27, 東京）の協賛。
- ・第5回日本ジオパーク全国大会（南アルプス大会, 実行委員長伊那市長）の後援。
- ・地質汚染・医療地質・社会地質学会主催, 第24回環境地質学シンポジウム（2014/11/28-29, 日本大学）にたいして, 環境地質部会が共催。
- ・第12回高校生科学技術チャレンジJSEC2014の後援（作品募集期間：2014/9/1-10/8）。
- ・山陰海岸ジオパーク国際学術会議「湯村会議」（2014/10/25-26）の後援。
- ・こどものためのジオ・カーニバル企画委員会（代表者廣木義久）, 第15回こどものためのジオ・カーニバル（2014/11/1-2, 大阪市）の後援。
- ・第13回微量元素の生物地球化学に関する国際会議（組織委員長金沢晋二郎）（2015年7/12-16日, 福岡）への後援。
- ・Project A主催, KIGAM共催, 3rd International Geoscience Symposium-Project A in Korea--Observational oceanic-biogenic-geological records from modern to early Earth History--（2015/3/5-8, 大韓民国太田韓国地質資源研究院）への後援。
- ・北淡国際活断層シンポジウム2015（実行委員長：中田節也, 2015/1/12-17, 兵庫県淡路市）の後援。
- ・公社日本アイソトープ協会, 第52回アイソトープ・放射線研究発表会（2015年7/8-10日, 東京大学）の共催（運営委員：小宮剛理事）。
- ・計測自動制御学会, 第40回リモートセンシングシンポジウム（2015/3/2, 東京）へ

の協賛。

- ・奥出雲多根自然博物館, 惑星地球フォトコンテスト入選作品展（2015/1/2-2/2）の共催。
 - ・第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム（2015/9/15-20, 実行委員長尾池和夫）の後援。また, 同組織委員会より会長に顧問就任の依頼があり承諾。
 - ・科学教育研究協議会より第62回全国研究大会（2015/8/8-10, 近畿大）の後援。
- <他学協会などへ依頼>
- ・第121年学術大会：鹿児島大会の巡検（会期中：9/13, ポスト：9/16-17）について, 関連学協会15団体に協賛を依頼し, いずれの学協会からも承認された。
 - ・「2014年度秋季地質の調査研修」（2014/11/25-29実施）について, 産業技術総合研究所あて共催を依頼し承諾された。
 - ・「2015年度春季地質の調査研修」（2015/5/18-22実施予定）について, 産業技術総合研究所あて共催を依頼し承諾された。
 - ・第122年学術大会：長野大会のセッション共催：堆積地質部会に関わる4セッションについて, 石油技術協会探鉱技術委員会と日本有機地球化学会へ共催を依頼し承諾された。
 - R9：堆積物（岩）の起源・組織・組成/R10：炭酸塩岩の起源と地球環境
 - R11：堆積過程・堆積環境・堆積地質/R12：石油・石炭地質と有機地球化学
 - ・街中ジオ散歩（5/10日〔日〕；地質の日イベント）の後援：世田谷区教育委員会と東京都地質調査業協会へ後援を依頼し承諾された。

7) 支部の活動

<北海道支部>

1. 2014年度「地質の日」記念展示（2014年4月22日～6月8日）
- ・北海道大学総合博物館企画展示「地図が語る多様な世界—地図の過去・現在・未来—」。北海道大学総合博物館・『地質の日』企画展示実行委員会主催。共催：日本地質学会北海道支部・（独）産総研地質調査総合センター・（地独）北海道立総合研究機構地質研究所・北海道開拓記念館・札幌市博物館活動センター・北海道地質調査業協会・NPO法人Digital北海道研究会。協力：北海道大学付属図書館・国土地理院北海道地方測量部・一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構・地図と鉱石の玉の手博物館。後援：「測量の日」北海道推進協議会。
- ・市民対象の地質巡検「札幌のメモを訪ねる」を実施（5月18日）。参加者27名。
- ・土曜市民セミナー：
 - (1) 国土地理院：2014年5月17日「地図と重力（仮題）」。参加者40名強。
 - (2) 山岸宏光：2014年5月11日「最近の地図と地理情報システム（GIS）」。参加

者約70名。

- (3) 地徳力：2014年5月24日「ライマンはなぜ, 開拓時で道に迷ったか=江戸末期～明治初期の地形図事情=」。参加者約70名。
2. 北海道支部総会・支部例会
 - ・総会（2015年2月28日）於北海道大学理学部。出席者18名, 委任状18名, 計36名
 - ・例会（個人および招待講演会；2014年5月31日）於北海道大学理学部。参加者54名, 個人講演11件, 招待講演1件／「地域地質研究をどのように一般化するか。北海道研究への期待」（木村学〔東京大・教授〕）。その後, 同テーマで討論会を実施。
 3. 北海道支部巡検
 - ・春の日帰り巡検「裏山の地質災害—豊平川の洪水」（2014年6月1日）。見学コース：鴨々川水門～南19条大橋の洪水堆積物～1981（昭和56）年豪雨の被災・氾濫跡（真駒内・藤野）～小金湯温泉の悲劇ほか。参加人数：計31名（院生・学生は13名）。
 - ・秋の巡検「日高帯北部～神居古潭帯の横断」（2014年10月4～5日）。見学コース：（10月4日）日高山脈博物館・ウエンザル林道の日高変成帯とポロシリオフィオライト。（10月5日）蝦夷層群中部層準の“基底”礫岩・岩知志発電所の海嶺玄武岩・新日東の蛇紋岩／泥岩テクトニックコンタクト・岩内かんらん岩と低温沈殿性蛇紋石。討論会（夜間）「古第三紀以降のテクトニクスの未解決問題+」。参加人数：計19名（院生・学生は4名）。
 4. 北海道地質百選検討
 - ・ウェブ運用：公開済みジオサイト数は401カ所（登録数713件）。
 - ・「北海道地質百選（仮称）」の出版予定：北大出版会より2015年出版を目指して準備中。
 5. ジオパーク支援活動
 - ・世界ジオパークネットワーク（GGN）新規加盟申請に向けた国内予備審査地域1地域（アポイ岳）, JGN1地域（白滝）の再審査が実施された。アポイ岳は新規加盟申請, 今年の5月～7月頃にGGNによる現地審査が行われる予定。白滝は条件付き再認定となり, 2年後に再々審査が行われる。ジオパーク支援委員は各ジオパークに対する支援として, 審査結果判明後の日本ジオパーク委員会・日本ジオパークネットワークとの調整, 情報提供などを行った。
 - ・旭川, 八雲, 中頓別に加え, 美瑛・上富良野地域でもジオパークを目指した動きがあり支援。
- <東北支部>
1. 東北支部2014年度総会・シンポジウム・講演会, 於岩手大学工学部
 - ・シンポジウム「東北地方のテクトニクス」（3月7日（土）13:00～18:00）
 - ・総会（3月8日（日）9:00～9:30）：平成26年度活動報告, 平成27年度計画を了承。県の石について対応を協議。

・講演会（3月8日（日）9：30～15：00）：口頭発表14件，ポスター発表4件

2. 2015年度の事務局は引き続き岩手大学が担当

<関東支部>

1. 地質技術伝承講演会（2014年4月19日，会場：北とびあ）

「切土のり面にまつわる話（長期追跡調査，樹林化など）」（講師：佐藤高弘，明治コンサルタント（株）取締役技術統括部長），共催：関東地質調査業協会，参加者：63名

2. 地質見学会

・第5回ミニ巡検伊豆（2014年11月8～9日），参加者10名，案内者：狩野謙一（静岡大），伊藤谷生（帝京平成大），鈴木雄介（伊豆半島ジオパーク）

・教師巡検 5億年前と10万年前の茨城を観る（2014年8月20～21日），参加者：10名，案内者：荒川真司（清真学園）・田切美智雄（日立市郷土館）

・富士山巡検宝永火口と富士山南山腹の噴出物（2014年10月3～4日），参加者：31名，案内者：高田亮（産総研），吉本充宏（山梨県富士山科学研究所）千葉達朗・荒井健一（アジア航測株）

3. 緊急学習会

福島第一原子力発電所汚染水処理問題収束のために地質学は何をなさねばならないか，日大文理学部（2014年5月17日），参加者73人，講師：山元孝広（産総研）・丸井敦尚（産総研）・柴崎直明（福島大）・楊宗興（東京農工大）

4. ショートコース

地すべり破碎帯の構造地質学，帝京平成大中野キャンパス（2014年10月18日），参加者100人，講師：金川久一（千葉大）・氏家恒太郎（筑波大）・柴崎達也（国土防災技術株/京大防災研）・眞弓孝之先生（国土防災技術株）

5. シンポジウム

地学教育サミット「ジオパークと教育」小田原市生涯学習センター（2015年3月15日），参加者93名，講師：高橋雅紀（産総研）・高木秀雄（早稲田大）・田切美智雄（日立市郷土館）・茨城県北ジオパーク天野一男（茨城大）・下仁田ジオパーク関谷友彦（下仁田ジオパーク推進協議会）・伊豆半島ジオパーク富川友秀（静岡県立松崎高校）・伊豆大島ジオパーク中林利郎（伊豆大島ジオパーク推進委員会）・銚子ジオパーク山田雅仁（銚子ジオパーク推進協議会）・秩父まるととジオパーク小幡喜一（埼玉県立熊谷高校）・箱根ジオパーク山口珠美（箱根ジオミュージアム）

6. フィールドキャンプ

千葉県鴨川市清澄東大演習林（2014年8月25～31日），参加者学生6名

7. 2016年地質学会大会開催準備

大会委員決定，鹿児島大会LOC打合せ（2014年9月14日）

8. 支部活動

・支部総会（4月18日，会場：北とびあ）：

活動報告，会計報告，活動計画，予算案

・支部功労賞授与（2団体）：横須賀市自然・人文博物館，千葉達朗

・幹事会：11回開催（1回/月程度）

・（後援）秩父ジオパークジオツアー（2014年5月17日，7月26日，8月3日，11月9日）

・（協力）本会地質の日イベント街中ジオ散歩「下町低地の地盤沈下と水とくらし」（2014年5月10日），秋季地質調査研修（2014年11/25～29日）

<中部支部>

1. 中部支部総会（6月14日（土），信州大学理学部）

2. 講演会等（6月14日（土），信州大学）シンポジウム「観光資源としての地形・地質」（発表5件），研究発表（口頭：8件，ポスター：7件），懇親会，参加者約30名

3. 地質巡検（6月15日（日），「上高地の成り立ちをみる」案内者：原山智，参加者：17名）

<近畿支部>

1. 2014年度支部体制

支部長：宮田隆夫（神戸大学），代表幹事：三田村宗樹（大阪市大），行事：小林文夫（兵庫県立人と自然の博物館），会計：大串健一（神戸大学），庶務：竹村静夫（兵庫教育大学），幹事：奥平敬元（大阪市大），里口保文（滋賀県立博物館），和田稔隆（奈良教育大学），田中里志（京都教育大学），此松昌彦（和歌山大学）

2. 行事報告

・地質の日イベント

地球科学講演会「プレートの沈み込みと国土形成－紀伊半島南部のおいたちとジオパーク構想－」，2014年5月25日（13:30～），日本地質学会近畿支部・大阪市立自然史博物館・地学団体研究会大阪支部共催，講師：鈴木博之氏，参加人数：125名

<四国支部>

1. 2014年度支部体制

支部長：榊原正幸，幹事：齊藤 哲（事務局長），村田明広，西山賢一，寺林 優，近藤康生，奈良正和，佐野 栄（事務局：支部HP）

2. 行事報告

・第14回日本地質学会四国支部総会・講演会（2014年12月20日（土），愛媛大学理学部講義棟），参加者：36名，個人講演：口頭発表12名/ポスター発表10名

<西日本支部>

1. 日本地質学会第121年学術大会（鹿児島大会）の支援，9月13日（土）～15日（月・祝），鹿児島大学郡元キャンパス

2. （共催）「地質の日」企画「身近に知る「熊本の大地」」，4月1日～5月31日（地質の日体験イベント，5月10日），熊本県宇城市松崎町熊本県松崎収蔵庫

3. （後援）日本応用地質学会・環境研究部会・市民フォーラム2014 in 福岡「災害につ

よい地域づくり」，5月17日（土），九州大学西新プラザ2階会議室

4. （後援）山口大学理学部「サイエンスワールド2014」，10月19日（日），山口大学吉田キャンパス

5. （主催）第166回日本地質学会西日本支部・総会・例会，2015年2月21日（土），山口大学吉田キャンパス/（例会）口頭発表12件，ポスター発表24件，特別講演会「活断層と地震の話・アラカルト」（講師金折裕司[山口大]）。参加者：約70名。

2. 執行理事会および理事会議決・承認事項

1) 会長（代表理事），副会長の選出。

会長：代表理事に井龍康文，副会長（2名）山本高司（名誉会員推薦委員会担当），渡部芳夫（支部長連絡会担当）

2) 執行理事と特任理事の選出，部会長の選出。

常務理事：斎藤 真，副常務理事：星 博幸

運営財政部会：部会長 緒方信一

広報部会：部会長 坂口有人，松田達生

学術研究部会：部会長 ウォリスサイモン（国際特任），竹内 誠（行事委員長），中澤 努（JIS，標準）

編集出版部会：部会長 山路 敦（地質学雑誌担当），海野 進（Island Arc担当），保柳康一（企画出版担当）

社会貢献部会：部会長 平田大二（ジオパーク担当），杉田律子（生涯教育担当），廣木義久（学校教育担当）その他 125周年事業特任：矢島道子，地学オリンピック特任：久田健一郎，ジオパーク支援委員会：委員長天野一男，日本ジオパーク委員会委員：高木秀雄（平田大二に交代），学術教育連携：川辺文久

3) 理事会議長・副議長の選出

議長：榊原正幸，副議長：小嶋 智

4) 行事委員会委員，地質学雑誌編集委員の交代を承認。

5) 各賞選考委員会委員の選出，任期2年。

*理事の互選（10名）：千代延俊（資源），榊原正幸（環境），内藤一樹（情報地質），安藤寿男（層序），天野一男（地域地質），亀尾浩司（海洋），中澤 努（委員長，第四紀），安間 了（岩石学），佐々木和彦（応用地質），川端清司（教育普及）

*役職指定委員（8名）：（前・現地質学雑誌編集長・副編集長）小嶋 智，山路 敦，秋元和実，岩森 光，（前・現アイランドアーク編集長）井龍康文，前川寛和，伊藤 慎，海野 進

6) Nii（文科省）の電子図書館での有料公開出版物の取り扱いが平成28年度に終了する。Niiでの課金制度終了までは従来通りとし，終了時にはオープンにする。学会としては冊子の在庫がある限り販売する。

7) 2015年地惑連合大会における巡検の実施とGSA共催国際セッションはGSA側からの返答に基づき，地質学会としての巡検や

国際セッション等は行わないことにした。

8) 計報の取り扱いについて：これまでのルールどおり、名誉会員の計報はgeo-flashで広報する。加えて元正・副会長の計報についても同様とする。それ以外の会員については、関連する支部や部会がそのメーリングリストなどで広報する。広報委員会はこの原則に関する記事を作成し、News誌、geo-flashに掲載し会員に周知する。

9) 堆積学会の要請により、M.Chan教授の日本におけるGSA講演ツアーの費用負担として、地質学会は8万円を支出した。

10) 「一家に1枚」ポスター企画募集へ、前回と同様の提案・テーマ「地質災害」をブラッシュアップし再度応募したが、結果は不採択であった。

11) 鹿児島での津波シンポジウムと巡検に学術交流協定を結んでいる学会（タイ、モンゴル、韓国、イギリス）から会長等を招待した。

・タイ地質学会（理事）Mr. Suwith KOSUWAN

・モンゴル地質学会（会長）Dr. Tumur-Ochir MUNKBHAT

・大韓地質学会（会長）Prof. Daekyo CHEONG,（理事）Prof. Young-Seog KIM

・ロンドン地質学会（理事）Prof. Alan Richard LORD, Prof. David COPE

12) SKGB (Sasakawa GB) の援助金を3年間（90万円/年）受けた。本年はイギリスの専門家3名の招聘ほか、巡検費用の補助に使用。来年はイギリスでのシンポジウムで使用。再来年は未定。

13) 各県の岩石・鉱物・化石選定に関してのアクションプランの作成：各自治体で決めているか、希望があるかを確認するアンケートを行った。

14) 研究活動における不正行為の対応に関するガイドラインの策定が文部科学省で進められている。研究プロセスにかかる試料の保存など地質学特有の問題点を中心に学会としてコメントする。その際に理事会にもメールで問題提起し意見を集める。

15) 「地震に関する総合的な調査観測計画について」、専門部会からの意見もまとめて学会としてのパブリックコメントを提出した。

16) 連合のプログラム委員の推薦：（正）沢田 健／（副）小宮 剛

17) 石渡理事、高木理事から辞任届が提出されたことを受け、鹿児島大会で臨時総会を9月13日に開催することとした。

18) 125周年記念事業検討委員会の委員体制、活動予定について承認。
委員：矢島道子委員長、天野一男、永広昌之、緒方信一、佐々木和彦、佃 栄吉、宮下純夫

19) 地質学雑誌の編集規則類の改正：「細則3. 出版印刷費用等に関する細則」1)、「投稿編集出版規則」D. 論文の掲載b～d項の改正を承認。編集に関する各規則に「本

規則（細則）の変更は理事会の承認を得る」の文言を追加。

○細則3. 出版印刷費用等に関する細則1)

（改正前）印刷ページが16ページを超えた場合、負担金は1ページあたり¥16,000とする。

（改正後）印刷ページが制限ページ数を超えた場合、負担金は1ページあたり¥16,000とする。

○投稿編集出版規則 D. 論文の掲載（改正前）

b. 同じ筆頭著者の論文が、同じ号に2篇以上掲載されないようにつとめる。

c. 特別な号または特別な論文などについては、その趣旨に応じて掲載の順序を決める。

d. 講座については、連載の第1回と第2回を同じ号に掲載することができる。

（改正後）

b. 特別な号または特別な論文などについては、その趣旨に応じて掲載の順序を決める。

c. 講座については、連載の1回分を1つの号に掲載する。ただし、編集委員会が認めれば、第1回と第2回に限り、同じ号に掲載することができる。

20) 2017年年会開催地の決定：2015年以降の開催地（会場）は次の通り。
2015年中部支部：信州大学
2016年関東支部：日本大学
2017年四国支部：愛媛大学

21) 2015年度総会を2015年5月23日（土）に開催することを承認。

22) 運営規則の改正：運営規則第2章第5条に6項（退会の手続きに関する項目）を追加。運営規則第2章第7条4項4号の除籍に関する文言の改正を承認。

○入会・退会

第5条6項退会は、書面にて退会届（書式任意、電磁的方法、郵送いずれも可）を提出する。未納会費がある場合には、これを支払わなければならない。

（会費）
第7条4項（4）
（改正前）会費を当該年度中に支払わなかった会員は、正当な理由がないと理事会が判断したときは会員の資格を喪失し除籍となる。
（改正後）会費支払いの督促を受けつつ、正当な理由なく、かつ、退会届を提出せぬままに会費を滞納した会員は、滞納4年度目をもって、理事会の議決により会員の資格を喪失させ除籍とする。

23) 2016年国際地学オリンピック日本大会（三重大会）への協賛金100万円を拠出する

こととした。

24) 地質災害委員会の委員会体制および基本方針等について承認。
委員：斎藤眞委員長（再任）、後藤和久（委員長代理）、川村信人（北海道）、越谷信（東北）、本田尚正（関東）、野沢竜二郎（中部）、三田村宗樹（近畿）、西山賢一（四国）、奥村晃史（西日本）、黒田登美雄（第四紀）、安藤 伸（応用地質）、木村克己（地域地質）、千葉達朗（火山）、上砂正一（環境地質）

25) HPの専門部会ページの英文化（各部長に依頼）を行った。

26) JpGUのキャリア支援委員会委員の交代：佐々木和彦理事から杉田律子理事に交代。

27) 台湾地質学会との学術交流協定締結することとし、準備中。

28) モンゴル地質学会との学術交流協定が5年の期限（10月14日）を迎え、更新した。

29) 行事委員会が作成した学術大会実施要領を承認。

30) 日本原子力学会の依頼により同学会誌「ATOMOΣ（アトモス）、2015年3月号特別企画」に、東日本大震災に対する取り組みおよび学会誌の紹介記事を会長が寄稿。

31) 各賞選考委員会（中澤委員長）は各賞選考検討委員会を設置し、日本地質学会賞、小澤儀明賞選考の諮問をした。
・指定委員：石渡 明、井龍康文、乙藤洋一郎、川幡穂高、斎藤文紀、小嶋 智、山路 敦（委員長）、前川寛和、伊藤慎、海野 進、執行理事会の推薦者：佐脇貴幸
・Island Arc賞については、Island Arc編集委員会に選考を諮問した。

32) 次期学習指導要領改訂に向けてWG（担当理事：廣木義久、中村教博、安間 了、渡来めぐみ、星 博幸、平田大二、中澤努、杉田律子）を立ち上げ、3月31日付で文部科学大臣、第8期中央教育審議会会長あてに要望書を提出した。

33) 大学評価・学位授与機構より、国立大学教育研究評価および機関別認証評価委員会の専門委員候補者の推薦依頼があり、3名の会員を推薦。

34) 経済産業省資源エネルギー庁電力・ガス事業部放射性廃棄物等対策室より、総合資源エネルギー調査会審議会（地層処分技術WG）再開にあたり委員委嘱要請があり、前年度に続き渡部芳夫理事を推薦。

35) 地層名等の層序単元登録に係る委員会（「層序単元登録審査委員会」）を設立し、他学会にも委員の推薦を要請した。
委員長：日本地質学会標準担当理事中澤努（産総研）
委員：日本地質学会地域地質部会内野隆之（産総研）、日本地質学会層序部会岡田 誠（茨城大学）、地学団体研究会角 縁 進（佐賀大学）、日本第四紀学会長

- 橋良隆 (福島大学), 日本火山学会及川輝樹 (産総研), 日本鉱物科学会石川正弘 (横浜国立大学), 東京地学協会工藤崇 (産総研), 産総研地層名DB担当齋藤眞, 巖谷敏光
- 36) 「県の石」の一般公募について, 8月13日~10月31日の募集をプレスリリースした。「県の石」の選考対象とする範囲は, 岩石 (未固結のものも含む), 鉱物 (鉱物・鉱石), 化石 (必ずしも単一の分類群でなくても良い) とした。なお, 鹿児島県の石については, 当年度の学術大会開催を記念し, 先行して選定した (*1)。10月末に一般からの募集を締め切り, 選定委員会を設置した (*2)。現在, 各支部の協力を得て選定中であるが, 選定スケジュールを再検討し, 2015年9月に決定とした。
- *1 鹿児島県の石
 岩石: シラス (主に入戸火砕流堆積物) / 鉱物・鉱石: 菱刈金山の金鉱石 (自然金) /
 化石: 甕島・獅子島の白亜紀動物化石群
- *2 選定委員長: 川端清司, アドバイザー: 石渡明, 永広昌之
 専門部会推薦委員 (6名): 松原典孝 (地域地質), 高橋雅紀 (層序), 重田康成 (古生物), 長谷川健 (火山), 藤永公一郎 (鉱物資源), 辻森樹 (岩石)
 各支部推薦委員 (7名): 竹下徹 (北海道), 土谷信高 (東北), 有馬眞 (関東), 原山智 (中部), 里口保文 (近畿), 堀利栄 (四国), 佐野弘好 (西日本)
- 37) 地質学会が著作権を保持している論文を学術機関レポジトリに挙げる場合の問題や法的な解釈について法務委員会 (上砂正一委員長) に諮問し, 答申を受けた。今後, 法務委員会の答申にそって投稿規則の適切な改正を行うこととした。
- 38) 2015年度名誉会員推薦委員会委員の選出: 委員長: 山本高司副会長
 ・階層別委員 (4名): 大学: 竹内章 (富山大), 官公庁: 栗本史雄 (産総研), 小中高: 会田信行 (秀明大, 元高校教員), 会社: 松浦一樹 (榊ダイコンコンサルタント)
 ・職責委員 (支部長7名): 竹下徹, 土谷信高, 有馬眞, 原山智, 宮田隆夫, 榊原正幸, 佐野弘好
 ・理事会推薦 (1名): 向山栄
- 39) 学術大会巡検実施申し合わせの改訂を承認。
- 40) 地質学雑誌投稿編集出版規則の一部改正: 地質学雑誌に著者プロフィール欄を新設するための掲載規定を承認。
- 41) 広報体制を見直し, 体制強化をはかるための役割分担を承認。
 geo-flash/HP担当: 松田達生, ニュース誌担当: 小宮剛, ジオルジュ担当: 坂口有人, 惑星地球フォトコン担当: 清川昌一, 記者会見担当: 坂口有人・松田達生
- 42) Geological Society of Americaとの交流協定について: 地質学会とGSAが対等の立場となる協定ではないので, Associate Societyにはならないとし, これを了承。
- 43) 各学術交流協定国との協力を担当する委員について, 既存の国際交流小委員会 (2007年に発足) を再起動することを承認。
- 44) ジオパーク日本委員会の委員の交代: 高木秀雄委員から平田大二委員に交代。
- 45) ベトナム地質学会との連携: 過去の経緯をよく調べて, 今後の連携を図るようにする。
- 46) 『原子力学会は, “原発の敷地内にある破砕帯などの断層について, 原子炉建屋への影響などを評価する方法を策定する調査専門委員会を発足させた, 委員会には土木学会や地質学会, 電力会社なども加わっている。」との記事が1月8日付の毎日新聞に掲載された。この件について, 地質学会は, 原子力学会からは本件に係わるいかなる申し入れや要請も受けておらず, また同委員会に係わる本学会員からの報告等もなかったことから, 原子力学会に対し, 事実関係の公表とお詫びを至急公表するとともに, 報道機関に対して訂正を依頼するよう, 申し入れをした。
- 47) 長野大会委託業者の選定: 長野大会は日本旅行に依頼する方向で調整した後, 日本旅行に正式決定した。
- 48) 山田科学振興財団の研究助成への推薦 (1件) を承認。なお, 2014年度の研究援助は, 武藤潤会員が採択された (研究主題「不均質岩石レオロジーを考慮した東北沖地震後の地殻変動解析」)。
- 49) 事務局職員の退職: 事務局員の阿南晶子氏は, 2月12日に退職の意思を表明され, 3月末日をもって退職された。
- 50) 東日本大震災から4年の節目にあたり, 声明「地学の知識を減災のソフトパワーに—東日本大震災4年目を迎えて—」を発表し, 文部科学省の記者会に対し, 3月2日付でプレスリリースを行った。
- 51) 2014年度センター試験「地学」に関する申し入れ書を入試センターに送付し, プレスリリースした。
- 52) 運営規則第16条の改正を承認。永年顕彰会員の対象についての文言を追加。
 第7章表彰 (表彰)
 第16条 本学会は地質学に関する優秀な研究業績を修めた者, ならびに地質学の発展・普及による社会貢献の著しい者を顕彰するとともに, 地質学会において長年にわたって活躍してきた会員に永年会員顕彰を授与する。
 2 表彰の名称および内容は次のとおりである。---以下, 文章略---
 (1) 日本地質学会賞: ---以下, 文章略---
 (2) ~ (9) 項略
 (10) 日本地質学会表彰: ---以下, 文章略---
 (11) 永年会員顕彰: 学会の記録に基づき, 当該年の1月から12月末日までに在会50年 (通算可) に達する会員。
- 53) 2014年度事業報告・決算案を承認した。【1号議案】
- 54) 次の24名の会員を50年会員として顕彰することとした。
 阿部正宏, 在田一則, 上田茂春, 宇田進一, 浦野隼臣, 遠藤毅, 大島治, 大野隆一郎, 小野晃, 加々美寛雄, 上出定幸, 黒川勝己, 小林昭二, 神保幸則, 杉本幹博, 調枝勝幸, 角田寛子, 寺崎紘一, 新妻信明, 西田史朗, 楡井久, 藤吉瞭, 箕浦名知男, 宮島吉雄
- 55) 2015年度事業計画および2015年度予算案を承認した。【2号議案, 3号議案】
- 56) 名誉会員推薦委員会から提案された下記の2名の会員を総会に推薦することとした。【4号議案】
 齋藤靖二会員, 鈴木堯士会員
- 57) 各賞選考委員会より提案された下記の各賞受賞者を承認した。(推薦文は1号議案資料2参照)
 ・日本地質学会賞 (1件)
 脇田浩二 (山口大学大学院理工学研究科)
 対象研究テーマ: 付加体地質学を基にした日本~アジアのシームレス地質研究
 ・日本地質学会小澤儀明賞 (1件)
 辻健 (九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所)
 対象研究テーマ: 地震探査データ解析の高精度化によるプレート境界断層の形態と応力分布に関する研究
 ・日本地質学会 Island Arc 賞 (1件)
 授賞論文: Arai, S., Okamura, H., Kadoshima, K., Tanaka, C., Suzuki, K. and Ishimaru, S., 2011, Chemical characteristics of chromian spinel in plutonic rocks: Implications for deep magma processes and discrimination of tectonic setting. *Island Arc*, **20**, 125-137.
 ・日本地質学会論文賞 (2件)
 Kouketsu, Y., Mizukami, T., Mori, H., Endo, S., Aoya, M., Hara, H., Nakamura, D. and Wallis, S., 2014, A new approach to develop the Raman carbonaceous material geothermometer for low-grade metamorphism using peak width. *Island Arc*, **23**, 33-50.
 岩野英樹・折橋裕二・檀原徹・平田岳史・小笠原正継, 2012, 同一ジルコン結晶を用いたフィッシュトラックとU-Pbダブル年代測定法—島根県川本花崗閃緑岩中の均質ジルコンを用いて—。地質学雑誌, **118**, 365-375。
 ・日本地質学会小藤文次郎賞 (2件)
 氏家恒太郎 (筑波大学生命環境系)
 Ujiie, K. et al., 2013, Low coseismic shear stress on the Tohoku-Oki megathrust determined from laboratory experiments. *Science*, **342**, 1211-1214.
 堤浩之 (京都大学大学院理学研究科)
 Tsutsumi, H., Sato, K. and Yamaji, A., 2012, Stability of the regional stress

field in central Japan during the late Quaternary inferred from the stress inversion of the active fault data, *Geophys. Res. Lett.*, **39**, L23303, doi: 10.1029/2012GL054094.

・日本地質学会研究奨励賞 (1件)

越智真人 (東建ジオテック株式会社)

対象論文: 越智真人・間宮隆裕・楠橋直, 2014, 四国の中新統久万層群層序の再検討: “下坂峠層”と“富重層”, 地質学雑誌, **120**, 165-179.

・日本地質学会功労賞 (1件)

大山次男 (東北大学理学部技術部)

功労業績: 岩石研磨薄片技術の高度化

・日本地質学会表彰 (1件)

白尾元理 (写真家)

表彰業績: ジオフォト文化の先駆と発展, その科学的メッセージの発信 (58) 5月23日開催予定の総会議案の承認.

2015年度事業計画基本方針

2014年度事業実績概要

2014年度, 本学会は会員と支部・部会などの活動により, 以下に要約するような成果をあげることができた.

2014年に選挙により執行体制となった. 新執行体制は旧執行体制の成果を継承し, 事業は円滑に引き継がれた. 新執行体制では, 会長と2名の副会長が産学官の出身で, 産学官の連携の強化が図られている. 本学会の活性化と発展のためには, 専門部会と支部の活動の充実が必要不可欠であるが, 活動が低調もしくは休止状態にある専門部会と支部があるので, 整理と統合, 活性化策の検討を始めた. 本学会は, 日本における地球惑星科学関連学会では, 最大規模の学会であり, その社会的責務も大きい. これを踏まえ, 国が実施した意見募集のうち, 本学会に関係の深い3件に関して学会としての意見を表明した. これは, 本学会が学術団体としての立場から, 地質学という学識に基づいて積極的に発言することは, 本学会の重要な責務であると考えてのことである.

鹿児島での学術大会は, 「わがこっじゃつど, 地質学」のテーマのもとに, 一般シンポジウム「九州が大陸だった頃の生物と環境」, 国際シンポジウム「津波ハザードとリスク: 地質記録の活用」, 小林哲夫氏の市民講演会「桜島と諏訪の瀬島の大噴火と火山災害」が盛会のうちに開催され, 602件の口頭・ポスター発表が行われた. 特筆すべきは, 本大会での活発な国際交流であり, 大韓地質学会, タイ地質学会, モンゴル地質学会, ロンドン地質学会の代表が参加したほか, 台湾の中央地質調査所からの参加者もあった. 国際シンポジウムは, 昨年, 学術交流協定を締結したロンドン地質学会との共催であり, シンポジウムと巡検を組み合わせたい意欲的な企画であった. また, 市民向けのアウトリーチ巡検

を含む, 8コースの巡検も成功裏に行われた. 本学会が共催して鹿児島市中央公民館で行われた地質情報展「地質情報展2014かごしまー火山がおりなす自然の恵みー」は盛況であった. 特に, 会場の床に展示された巨大な九州・沖縄地方の地質図は, 来訪者の好評を博した. 本大会は地方での開催であったにも関わらず, 参加者は834名に達し, 活発な学術発表, 国際交流, アウトリーチ活動が行われたことより, 成功と総括できる.

地質学雑誌は本学会の根幹をなす月刊学術誌であり, その安定した出版と内容の充実は最重要である. しかし1990年代以来, 投稿数が減少しており, 2014年は1号あたりの掲載数が2-3編になっている. このような状況を打開するため, 地質学雑誌編集委員会は, 「講座」というジャンルの新設, ページ制限の緩和, 著者紹介の掲載等の対策を講じた. しかし, 根本的な対策を検討する時期になったと思われる. *Island Arc*は2011年に投稿数が大きく減少し, その影響で2012年のページが激減したが, その後は回復基調にある. しかしながら, インパクトファクターは1.0をわずかに上回ったところで, 停滞している. なお, 研究活動における不正行為が社会問題化していることを重く受け止め, 本学会の学術雑誌(地質学雑誌, *Island Arc*)が不正行為の場あるいは不正行為が行われた研究の発表の場とならないよう, 編集長に注意を喚起した. また, 本学会がサポートし英国地質学会が発行する「*Geology of Japan*」の執筆・編集作業は約9割が完成した.

本学会は, 地質災害に対して, 学術団体として社会が期待する情報を迅速に発信する使命がある. 今年度, 発生した大規模地質災害(南木曾ならびに広島市安佐南区で発生した土石流, 御嶽火山の噴火, 長野県北部地震)に関しては, 地質災害委員会が産総研地質調査総合センターの情報を使用する形で, 災害の地質学的背景を学会HPで迅速に発信した. また, さらに詳しい速報を「日本地質学会News」に掲載した.

普及活動に関しては, ジオパーク推進活動がさらに前進し, 現在, 国内ジオパーク総数は36に達し(立山黒部, 南紀熊野, 天草が新たに加わり, 天草と天草御所浦が合併), うち世界ジオパークは7地域(阿蘇が新たに加わる)となり, 着実に増加しつつある. 地学オリンピックも参加者が着実に増加しており, 今年度も世界大会で金メダルを獲得した. リーフレットや電子書籍などの新しい企画が着実に進行している. 書籍出版では, 本学会編の地方地質誌が東北・四国を残すのみとなっているが, 本年度中に刊行することができなかった. 早期の刊行のために, 学会をあげての取り組みが必要である. 2013年度の末には地球史年表とリーフレット「富士山・青木ヶ原溶岩のたんけんマップ」が出版された. 「箱根たんけんマップ」については小修正をおこない2000部の増刷をおこなった. また, 地質の日の取り組みや惑星地球フォトコンテ

ストが定着し, 「友の会」や若手会員を主な対象とした情報交換サービス(SNS)「ちーとも」の利用が増加しつつある. 本学会が一般に販売する広報誌「*ジオルジュ*」も順調に発行され, 高い評価を得ている.

日本地質学会選「県の岩石・鉱物・化石」の選定に関しては, 一般公募が終了し, 選考を開始した(鹿児島のみ, 学術大会の直前に発表済). 選考は, 支部および大学・博物館が中心となって進められており, 活発な議論が展開され, 順調に進行している.

国内の関連業界や社会への対応としては, 外部から本学会への業務の依頼や委託に対応できる体制になり, その取り組みが充実しつつある. また, 地質調査研修を秋に実施した.

地学教育に関しては, 教科書の発行部数から判断される高校地学の履修率は, 未だに低い水準に留まっているという問題点が指摘される. そこで, 物化生地というヒエラルキーの中で, 地学の存在感を高めて行くための取り組みを実施することとした. また, 次の学習指導要領改訂に向けて, 現行の教育内容を詳細に検討し, 「次期学習指導要領改訂に関する要望」を取りまとめ, 文部科学大臣ならびに第8期中央教育審議会会長に提出した. さらに, 平成27年度大学入試センター試験の地学関連科目で, 新教育課程の「地学基礎」, 「地学」, および旧教育課程の「地学I」において, いずれも平均点が他の理科科目に比べて低かったことを憂慮し, 善処を求める要望書を大学入試センター理事長に提出した.

国際対応としては, 前記のように, 鹿児島での学術大会に大韓地質学会, タイ地質学会, モンゴル地質学会, ロンドン地質学会から代表が参加し, 交流を深めた. モンゴル地質学会とは学術交流協定を延長した. また, 中華民国地質学会およびベトナム地質学会との学術交流協定の締結を検討中である. 今後の交流をさらに活性化し, 学術上の成果を向上させるために, 各国との交流推進担当者を選び, 従来の交流実績を踏まえた事業を展開する体制を準備中である.

2015年度事業計画概要

以上の成果を踏まえて, 特に以下に力点を置く.

1. 長野における学術大会を成功させる. 特に, 学術交流協定を締結している海外の学会やIUGS Initiative of Forensic Geologyとの共催シンポジウムを積極的に支援し, 学術大会の国際化を図る. また, 学術大会が若手(院生・学生)にとってアトラクティブなものとなるよう, 注目すべき若手による講演をウェブで紹介する等の試みを行う.

2. *Island Arc*の国際的認知度の向上のための組織的な取り組みを展開する. 国内外のアクティブな研究者への招待論文の執筆依頼, 学術交流協定を締結している学会と連携・協力した特集号の出版を企画する. さらに, 出版社と連携し, 海外の研究者に対し掲載論文

を紹介するメールを発信する等の積極的なプロモーションを行なう。

3. 地質学雑誌のあり方に関する検討を行う。地質学雑誌は投稿原稿の減少傾向が続いており、月刊の維持が困難な状況にある。隔月刊や完全電子化を含め、安定した出版体制の確立に向けた議論を行う。

4. 学術交流協定を締結している大韓地質学会、タイ地質学会、モンゴル地質学会、ロンドン地質学会との連携・交流を強化する。また、中華民国地質學會およびベトナム地質学会と学術交流協定を締結する。

5. 2012年6月に改正された地質図の記号等に関する日本標準規格 (JISA0204)、ベクトル数値地質図に関するJIS A0205ならびに国際標準の整備に対応して、それらの普及に努めるとともに、層序単元登録の体制整備を図る。

6. 科目として地学を設置し、地学教員を配置する高校の大幅増を目指し、関係機関への要望活動を行う。地学オリンピックへの支援を継続する。

7. 日本の地質学を代表する立場として、社会に対して学会声明や会長コメントなどを積極的に表明する。そして必要に応じてプレス

リリースを行い、地質学のプレゼンスを示すとともに、社会的立場の向上に貢献する。

8. 出版・アウトリーチ活動を通じた「地質学を身近に」運動を積極的に展開する。本学会のホームページ (HP)、ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス (SNS)「ちーとも」、広報誌「ジオルジュ」、リーフレット、フォトコンテスト、講演会などを通じ、社会への情報発信を強化する。また、ジオパーク運動への支援を強化し、重要な露頭の保全などに取り組む。特に、「県の石」に関しては、各種メディアを通じた宣伝を行うと同時に、各県において公式に認定されるように関係機関に働きかける。また、「日本地質学会選定の岩石・鉱物・化石」の刊行に向け、学会をあげて取り組む。

9. 地質技術者の継続教育の充実に向けて、企業会員向けのシンポジウム・研修会等を開連学会と実施しCPD発行によりサービス強化を図る。また、学生に向けた地質企業への就職支援として学術大会で実施している「若手会員のための業界研究サポート」の継続と内容充実に取り組む。

10. 以下の防災・減災に対する取り組みを積極的に進める。

- 1) 地質学的観点からの調査・研究の推進
- 2) 災害に関する地質学的知識や情報の提

供・発信

3) 自然災害に関する地学教育の推進

11. 学会の組織活動を全般的に強化する。産学官が連携した学会運営体制の構築、支部や専門部会の活動の活発化、理事の役割の強化、会員サービスの強化 (就職支援、地質技術者の継続的な専門教育 (CPD) など) を図る。若手の人材育成とシニア人材の活躍の場を広げる。

12. 4年後の本学会設立125周年に向け、記念事業の計画を策定するなど、準備を本格的に始める。

13. 前回の中期ビジョンを総括し、次期中期ビジョンの中間報告にて会員の意見を反映させて、提言をまとめる。

14. 新規の入会促進、入会者の定着、シニア会員の引き留め策を講じる。

15. 地質調査研修の資格化として、フィールドマスター認定制度を産業および教育関係者と連携して制度設計する。

16. 収入および支出を見直し、学会の事業が停滞しないように留意しつつ、財政を健全化する。

以上